



frozen in glass

耐震基準の変更に伴う、既存の公共建築の耐震改修は時代の要請である。また、老朽化と、生涯学習など地域に開放する動きから、小学校を今後の多目的な使用に合わせた空間に改修する必要が高まっている。

ガラスブロックを鉄板で組んだ耐震壁によって、小学校を再生すること。ガラスブロックの光によって耐震構造を視覚的に消去し、既存校舎を内外とも抽象的なヴォリュームの中に閉じ込める。光は分厚いガラスのヴォリュームの中を伝播し、床や壁を抜け、かつ回り込みながら、教室を新たな光で包みこむ。ガラスのヴォリュームは、教室空間にとって、外界の光・音・地震力・情報・空気などあらゆるエネルギーに対するバッファゾーンになる。

氷が学校をつつむように、全てを変えつつ、すべてを残す再生。
人々が教室に帰ってくる。
透けたガラスブロックを通して今を生きる空間と記憶の空間が重なりあう。

